

1歳児 実践事例

布で遊ぼう！おもしろそうだな！（10月）

観点（興味・関心）

視点（意欲～おもしろそうだな～）

【遊びの経過】

布を使って「いないいないばあ」遊びを楽しんできた。繰り返し布で遊ぶなかで、広げたり丸めたり投げたりして様々に布を変化させて遊ぶ姿がみられるようになった。

【ねらい】

保育者や友だちと一緒に、布を使った遊びを楽しむ。

【○幼児の活動

★環境の構成

■保育者の援助】

★いろいろな布やタオルを用意したり、音楽を流したりするなど、遊びたくなるような雰囲気をつくる。

○「いない いない ばあ」でふれあい遊びを楽しむ。

見てくれたよ。嬉しいな。

【喜び】【安心感】【満足感】



いないいないばあ。先生見て。見て。

【期待】【信頼】

かくれるよ。

【楽しさ】

■布の感触を楽しむとともに、友だちや保育者と顔を見合わせながら遊ぶことを繰り返し楽しめるように、子ども達の表情を観察しながら保育者も一緒に楽しむ。

○大きな布に、タオルボールを入れて遊ぶ。

（ポップコーン遊び）

入るかな。

【意欲】



（楽しいね）ほくもやりたい。ポンポンしよう。

【意欲】【興味】

わあ、おもしろそう。【興味】【期待】

★「ポップコーン遊び」の曲を流し、雰囲気を盛り上げる。

★色、手ざわり、大きさなどの違う布を用意する。

■曲に合わせて、大きな布からタオルボールが跳ね出る様子を見たり、跳び出したボールを拾ってまた入れたりするなど、期待をもちながらポップコーン遊びを繰り返し楽しめるようにする。

■ボールを入れたり拾ったりする時、子ども同士の衝突がないよう配慮する。



（ボールが落ちてるよ。）拾っていれよう。【気づき】【意欲】

（もう一回ポップコーンするよ。）ボールがいっぱい。またポンポンとぶかな。【期待】【予想】

■自分で遊びが見つけられない子どもには、そばに寄り添い、保育者と一緒に安心して遊びに参加できるようにする。

■自分なりの遊び方で楽しんでいる様子を受け止めながら「ボールがポンポン跳ぶね。」など一人一人に声をかけ、満足感や期待感をもたせ、次の意欲へつなげるようにする。

※吹き出しの（ ）内は、保育者の言葉かけ

【評価】

・布に興味を持ち、広げたり布にかくれたりするなど、自分からすすんで遊んでいる。